

合家ニ関スル何指令

(発行年 / Year)

1910

明治八年七月二十日

合家ニ関スル伺指令

明治八年宣統親王
(明治八年七月二十日)
一松ニテリ

一末家ヨリ本家相續スルハ末家ニ相續人ナ
リトモ不苦其節別ニ末家ハ相續人ヲ立ル
ビモ本家ハ不残合併之ルトモ協議次第ノコ
ト

指令ハ明治八年十一月十五日宮城縣

伺指令者ノ名ナシ

二當主病氣其跡相續スルヤ者ナキトキハ同性
又ハ末家ノ當主ト雖モ双方熟談ノ上ハ其情
願ニ任セ相續為致不苦其跡相續ノ儀モ同
様相心得ヘシ

指令ハ六年十一月八日東京府伺ニ對
スル正院御指令

三戸主タル者他家ハ養子不相成但不得已事情
有之候ハ跡相續人取設候上差許シ不苦
候

指令ハ七年七月五日鹽島縣伺正院指
令

四戸主他ハ養子ト相成候儀難聞届儀ニ候ハ
共不得已事故有之者ハ跡相續人取設候上ハ
差許不苦

但養子ノ引連候家族ノ内妻ノ入籍ハ勿論
願シヨリテハ其子ノ入籍可差許其他ノ家
族寄留同居ハ可為勝手候得共附籍ノ名
目ハ不相成候

指令(以上同)七年八月二十七日白川縣

正院指令

五 無祿ノ士族ニテ獨立活計難相成者他家ニ養
子ニ罷越使セ毫支申聞敷哉

伺之通

六年三月十七日石川縣 大藏省

六 單身及ヒ家族アル無財産ノ戸主 其家ヲ廢シ
他ニ養子ニ為ルコトハ其時ニ當リ伺出處分ヲ
受タヘシ

八年二月七日白川縣 指令者ノ名ナシ

七 獨身孤獨ノ貧窶者一戸ヲ廢シ他家ニ養子
女ニナル事ハ願出ノ上差許ス

八年六月十七日新川縣 指令者名ナシ(恩
ノニ凡ク内務省ナリシカ)

八 救恤未ヲ受タル單身ノ者一家ヲ潰シ他ニ養
女トナル^{時ハ養女ナリ}當日ヨリ救恤未ヲ返納スヘシ

八年九月二十二日 敦賀縣

九 亡夫ノ跡相續セル婦女ハ其結婚配偶セル夫
ト合家致シ候ニ無之設家ニ後夫ヲ迎^取奴家指
相讓使儀ニ候ハ、不苦

八年六月、四 和歌山縣

十 婚姻合家ニ付ギ亡夫ノ跡ヲ相續スル婦人ハ
有夫ヲステ論セス(意味不明)

伺ヒ何ヨリ 指令シタルカ不明

十一 某女、非常ノ窮民ニ候處不圖某ヨリ其
妻ニ賞ニ受ケ度別紙ハ通リ願出候一戸ヲ
潰シ候義ハ不容易儀ニ候得共難止テ聲聞

届可然哉聞届不苦

八年八、五 白川縣

十二 日雇仕事ヲ以テ 縷々 相當ニ 寡婦ニシテ 親類ニ 無之云々ノ 者 其ノ 妻ニ 縁談 相當候一
家ヲ 廢スルハ 容易ナリ 儀ニ 候得共 憫然ノ
次第ニ 付キ 情願 聞届ケ 度不苦哉

聞届不苦

八、九、二十九 島根縣

十三 一戸ヲ 潰シ 他家ノ 養母ト 相成候ハ 名義不
都合ニ 付 難聞届、 餘儀ナキ 事情アラハ 其家
附籍ニ 可取計

八、五、五、 新川縣

十四 男七、二名 共 獨身ノ 戸主ニ 候處 極貧ニ

テ 生計 相立 難事情ヨリ 一家ヲ 廢シ 他ノ 養
子 夫妻等ニ 相成リ 或ハ 農家ノ 復籍仕度
願 出候 聞届不苦哉

聞届不苦 (諸件ヲ 併合シテ 伺) 八、九、十 全

十五 本家分家 親戚等ノ 内 當主 病死 致シ 跡子
弟 幼年 並ニ 姉女子ノ 砌 死肯、 遺言又ハ 其父
母 並ニ 重立候 親戚 及ニ 遺妻 子 熟談ノ 上 合
家願 出候ハ 聞届不苦

六、一、二十二、 御市告峯

十六 本家分家 親戚等ニ 非ラヌ シテ 合家 候義
ハ 不相成候ヘ 共 男女 兩戸主 熟談ノ 上 結替
スルノ 故ヲ 以テ 合家願 出候ハ 聞届不苦

六、十、十三 布告

十七 本家相續ハ 主家ノ戸主 其家ヲ潰スモ不苦

九、十一、一、 愛媛縣

十八 七十五号 御発令以後ハ 合家ノ儀 不相成本
家ヲ相續スル等ノ 儀ニ候ハ、聞届不苦

九、十一、二十五 岡山縣

十九 分家セシ富人ニ限リ 本家相續ノ爲メ妻子
ヲ携リ復籍候ハ不苦モ 數世ヲ經タル者
ハ分家相續人可相立事

九、十二、二十二 千葉縣

二十 本家相續ノ儀ハ 一家ヲ潰スモ不苦、一家ヲ
潰ス例ヲ用キ又合家ノ例ヲ用キハ 差許ヌ

九、十一、廿一、 五川縣

二十一 本年第七十五号 公布前現ニ 男女西戸主

林内親王

結婚ノ儀ヲ以テ 合家セシ者ニ候ハ、姓名ハ
双方熟識ノ上一姓タルハナ事

九、六、十五 大坂府

二十二 七十五号ヲ以テ 合家被禁便ハ 士族ニ止
リ候義ト存候得共 平民モ 推所合家不相成
哉（指令）一般被禁候

九、八、二十四、 熊谷縣

二十三 士族 平民 合家スル者ハ 士族ノ家名ヲ可
相立儀ニ付何方ヨリ相合ヒ 便共 總テ士族ハ
編入スヘシ

九、六、二十九 兵庫縣

二十四 合家ハ 一般ニ禁止ス、同居及ヒ 附籍ハ 其
便宜ニ任スヘシ

九、七、八 山形野

二十五 合家ノ際、戸主ノ血属ハ、孝親ニ依リ、其血属無之者ハ、孝親外ノ家族ト心得ヘシ

九、六、十、 和歌山縣

二十六 合家ノ儀、七十五号ノ公布以前出願ノ分ハ、聞届不苦候ヘ共、男^子好^子西戸主合家ノ儀ハ不^レ相成

九、六、十四 敦賀縣

二十七 男子方ハ結婚合家セシ女戸主ハ、妻誰ト記載スヘシ

九、五、三十一、名東縣

二十八 乙ノ姓ヲ甲ノ姓ヘ引キテ戸籍上ニ記載スルコト七十五號ノ布告ノ通りタルヘシ
宗旨ハ双方ノ便宜ニ可仕

九、十二、二十八、青森縣

二十九 合家セシ妻ノ家族ハ等親外ノ家族ニテ妻某ノ兄弟姉妹ト肩書シ家族ノ末ニ記載スヘシ

九、六、八、大坂府

明治十年
三十 合家ノ儀ハ一方ノ家名ヲ相立候義ニ付出生ノ男女子ハ分離ノ上ト雖モ合家ノ節家名ノ相立候方ヘ属セシムヘシ尤双方協議ノ上何方ヘ引取ルモ不苦

十二、五、同者ノ名ナシ

三十一 合家ノ儀ハ両家ノ便宜ヲ以テ合併スル儀ニ有之候處昨九年五月以來御禁止相成候ニ付今般榮家聞届方御達ニ付テモ合家ハ聞届ケ難シ

十、九、二十四、群馬縣

三十二 賞典祿ノ其主死亡後兄ノ家ヘ合家合祿シタル者其妹ヲ公家セシメ尚族祿ヲモ分割セシメテ不苦哉 指令何レモ不相成

十、三、二十三、高知縣

三十三 家祿合併本家相續ヲ為ス者ハ本家復籍ニテ合家ニハ無之

指令ノ日ナシ上申ノ日附ハ十一

年三月九日ナリ

高知縣

三十四 一家ヲ廢シ他へ入夫養子等ノ者族籍復舊ハ不相成

十一、七、二十三、福島縣

三十五 先代先々代ニシテ分家ノ者ハ家名ヲ廢シ本家へ復籍不相成

十一、五、二、東京府

正年十三年ニ
別ニナレ
明治四年昌務
類集

三十六 妻子携帶本家へ復籍スルハ合家ノ例

ト異ナレリ

十四、二、十七 岩手縣

正丁六十七、十年

ノ類集ハ之ニ關ス
ヘキモノナレ十年ノ
類集ハ見當ニス

明治五年

三十七 明治九年七十五號布告ヲ以テ華士族

合家ノ儀禁止セラレタルハ其族籍混濁スル

ノ不可ナルカ爲メナリ此理由ニ依テ平民ト

雖モ士族ノ家ニ合併スルハ不相成(二十三ト

矛盾スルカ如シ)

二十六、二十一、仙臺始審裁判所長

伺ニ對スル司法大臣指令

正年ノ類集ナシ

明治三十二年

三十八 分家戸主廢家ノ上本家ノ養女ト結婚

許否ノ儀石ハ廢家本家へ復籍シ一旦他家ノ

養女ト爲レタル上ハ結婚ヲ許スヘシ

二十二、十二、廿五、愛媛縣ニ對スル
司法省民事局長

(附言、本例ハ合家ノ例ニ適當セサルモ揭ケタルナリ、二十二年ノ同指令ハ十一卷アルモ合家ニ関スルモノ一モナキヲ以テ、尤モ之ニ近キ本例一ヲ掲ケタリ)

明治三十三年
明治三十四年

八卷アルトモ一モ合家ニ関スルモノナシ
三十九 男戸主ト雖モ不得止者ハ廢家ノ上家族喪帶實家ニ復籍ハ不苦

明治三十四年、和歌山縣ニ對スル 内務
司法省西省

此亦適例ニ非サレトモ掲ケタリ、凡テ八卷ナレトモ合家ニ関スル適例一モナシ

明治三十四年

二十五、二十六、二十
七年ノ決議録
ハナシ

明治三十八年
適例ナシ

明治三十九年ノ決議
録ナシ

思フニ明治九年七十五號ノ布告以後ハ合家ニ関スル疑義ハ起ラザリシナランカ、明治十二年以降ハ合家ニ関スル同ハ殆トナシト言フテ可ナリ